

行事案内



発掘された関東の遺跡 2014

日時：平成 26(2014)年 8月 24日(日) 10:00～15:10
会場：江戸東京博物館 1階ホール 墨田区横網 1-4-1
アクセス：JR 総武線両国駅西口徒歩 3分、都営地下鉄大江戸線両国駅 A4 出口徒歩 1分
申込：不要 入場無料

遺跡見学会 伊勢原市「西富岡・向畑遺跡」

日時：平成 26(2014)年 8月 30日(土) 10:00～11:30 13:30～15:00
小雨決行、荒天の場合翌 31日(日)に順延
会場：伊勢原市西富岡 105 番地付近
アクセス：小田急線伊勢原駅北口から神奈川中央交通バス「日向薬師」または「七沢」行き乗車
「川上」バス停下車 徒歩 5分
申込：不要 入場無料

考古学特別研究講座

内容：「(仮)縄文中期の環状集落～相模原市内の調査事例を中心に～」
日時：平成 26(2014)年 9月 13日(土) 時間未定
会場：神奈川県埋蔵文化財センター研修室 横浜市南区中村町 3-191-1
アクセス：横浜市営地下鉄線「阪東橋」駅下車 徒歩 7分
※詳細は財団ホームページ等でお知らせします。

発掘調査成果発表会

内容：考古学財団が平成 25 年度に実施した遺跡の解説
日時：平成 26(2014)年 10月 18日(土) 10:10～16:10
会場：神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ) 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1
アクセス：JR 根岸線「本郷台」駅下車改札出て左すぐ
申込：不要 入場無料

公開セミナー「考古学から見る中世都市鎌倉の海浜地域」

日時：平成 26(2014)年 12月 21日(日) 10:00～16:20
会場：鎌倉生涯学習センター ホール 鎌倉市小町 1-10-5
アクセス：JR 鎌倉駅東口徒歩 3分
共催：鎌倉市教育委員会・鶴見大学 ※詳細は財団ホームページ等でお知らせします。

当財団以外の行事

第 3 回平塚市遺跡調査・研究発表会

「真田・北金目遺跡群 11 地点ほか」天野賢一
このほか 9 遺跡の調査事例の発表と尾野善裕氏
(奈良文化財研究所)の講演が予定されています。
日時：平成 26 年 8 月 30 日(土) 11:00～16:50
主催：平塚市教育委員会
会場：平塚市教育会館 3 階 平塚市浅間町 12-41
問い合わせ先：0463-35-8124 (社会教育課)

第 3 回考古学講座

「甲斐武田氏も攻めた戦国の堅城
—津久井城山頂部の調査成果—」相良英樹
日時：平成 26 年 8 月 30 日(土) 10:00～12:00
主催：神奈川県教育委員会
会場：かながわ県民センター 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2
申込：事前申込が必要です。下記にお問い合わせください
問い合わせ先：045-252-8661 (神奈川県埋蔵文化財センター)



お問い合わせ
お申し込み

(公財)かながわ考古学財団野庭出土品整理室
〒234-0056 横浜市港南区野庭町 1660
E-mail: fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-842-9888 FAX: 045-842-9904



発掘帖バックナンバーはホームページからダウンロードできます。



編集・発行：(公財)かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
TEL: 045-252-8689 FAX: 045-261-8162
ホームページ: http://kaf.or.jp



考古学財団
公益財団法人かながわ考古学財団情報誌

はっくつちょう 発掘帖

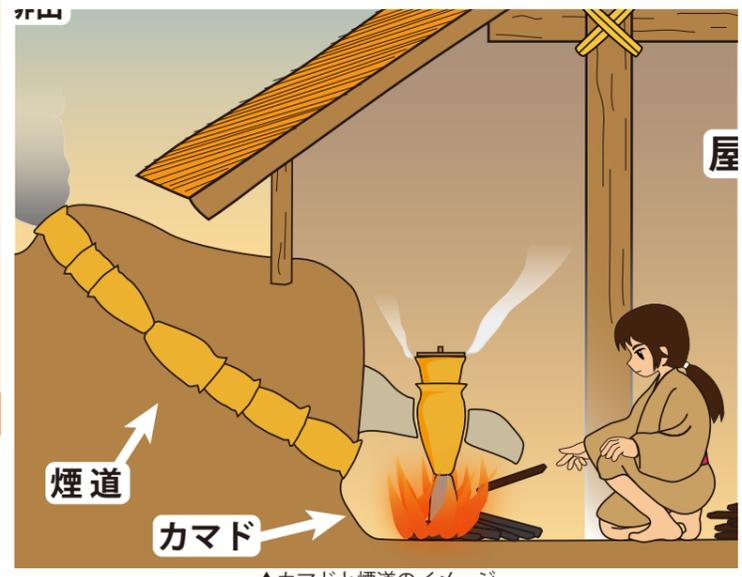
No.21
2014(平成26)年第1号



発掘帖21号から紙面をリニューアルしました。
これからもよろしくお願ひします。



伊勢原市 西富岡・向畑(伊勢原市 No.160)遺跡
甕を重ねた煙道を持つカマド



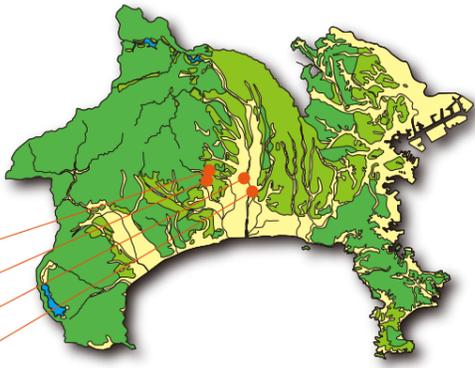
伊勢原市北部の富岡丘陵の麓に広がる西富岡・向畑遺跡は、旧石器時代～近世までの幅広い時代の遺構と遺物が見つかる遺跡です。本年度の調査では平安時代の竪穴住居から、土師器の甕を「煙道」に転用したカマドが良好な状態で発見されました。
煙道とはカマドで火を焚く時に出る煙を、家の外に排出する煙突にあたります。今回見つかった煙道は少なくとも7つ以上の甕を、底を抜いて重ね合わせて土管状にしていました。このようなたくさんの甕を用いた長大な煙道は、県内では他に数例しか見つかっていません。また、途中で甕の向きが逆になっていることも観察でき、これを造る際に、家の内と外から穴を掘って繋げ、甕を据えたという構築方法が推察されるなど、様々な情報が得られる発見でした。

▲カマドと煙道のイメージ

発掘現場インフォメーション

発掘調査中または出土品整理中の遺跡を紹介します。
 今回は厚木市「戸田小柳遺跡」寒川町「宮山中里遺跡」の調査について、
 そして伊勢原市「上粕屋・石倉中遺跡」から発見された
 大山道について紹介します。

- 西富岡・向畑遺跡
- 上粕屋・石倉中遺跡
- 戸田小柳遺跡
- 宮山中里遺跡

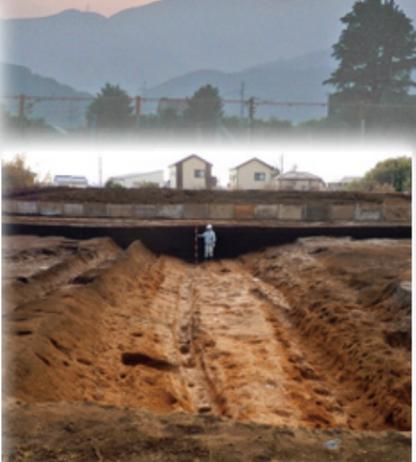


発掘コラム

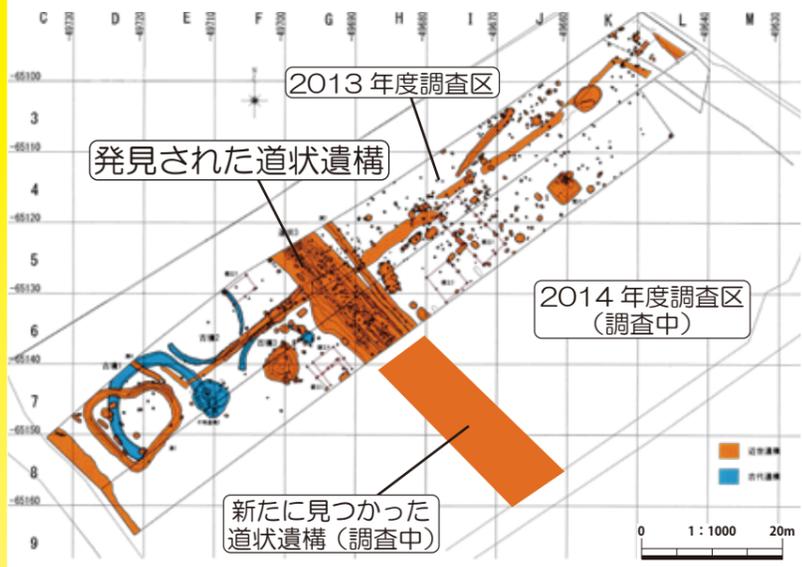
発掘された大山道～上粕屋・石倉中遺跡～



▲道状遺構の路面と石積



▲道状遺構の完掘状況、1m程の深さです



上粕屋・石倉中遺跡からみた大山

伊勢原市上粕屋に所在する上粕屋・石倉中遺跡第2地点の調査において、大規模な道跡が発見されました。道跡は上幅が8～10m、下幅4m、深さ1mの堀割状を呈する大規模なもので、約45mを調査しました。底には堅く締まった土の層（路面）が重なっています。また部分的にですが、側壁に沿って石積がありました。道跡は調査区の北西から東南に向けて直線的に伸び、その規模と方向から、江戸時代に大山道に参詣するための「大山道」(※)であると判断されました。

発見された道跡の伊勢原市街側の延長線上には、旧田村通り大山道とされる堀割状の遺構があり、道状遺構はかつての田村通り大山道の一部と考えられます。道跡の底面からは17世紀前半の陶磁器が出土し、また覆土(※)の上に形成された畝状遺構(※)が宝永4年(1707年)の富士山噴火で噴出した宝永火山灰(※)に埋もれていたことから、少なくとも発掘された範囲については、17世紀前半代に使用され、18世紀初頭には道としての機能を失って埋没していたことがわかりました。

現在も地表で観察できる旧田村通り大山道の遺構については、他の大山道とは道幅や構造などが隔絶した規模であることから、江戸期より古い道である可能性が指摘されたことがあります(註1)。今回の調査はこの旧田村通り大山道についての、初めての本格的な考古学的調査となりました。

(註1) 安藤洋一 2011「再発見大山道調査」伊勢原市教育委員会編『伊勢原市内の大山道と道標』

- 用語集**
- 大山道……大山阿夫利神社へ参詣する人びとが通った古道。藤沢から発する田村通り大山道や、江戸から延びる青山通り大山道が有名。
 - 覆土……遺構の中に堆積した土。
 - 畝状遺構……畑の耕作跡と考えられる、細長い直線的な掘り込みが複数並列する遺構。
 - 宝永火山灰……江戸時代の宝永4(1707)年に発生した、富士山南斜面の噴火で噴出した火山灰。遺構の年代を把握できる「鍵層」。

整然と並ぶ杭列…弥生時代の流路跡

本遺跡は、小田急線本厚木駅から約3.6km南の厚木市酒井に所在し、相模川右岸の自然堤防(わずかな高台、標高約13～14m)に立地しています。新東名高速道路建設に伴い調査により、これまでに、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世の溝状遺構が発見されています。

弥生～奈良時代の溝状遺構は主に南北方向を、中・近世では主に東西方向を軸としています。



▲古墳・弥生時代の溝状遺構、緩やかな掘り込みをしています

中世、近世の溝状遺構は断面が逆台形を呈するなどしっかりと掘り込みが確認され、人の手で掘られた遺構と考えられます。

一方、弥生時代や古墳時代の溝状遺構は掘り込みがはっきりとせず、断面形が広いレンズ状を呈することから、自然に形成された流路の可能性が考えられます。Y1号溝状遺構からは土器や石器などの遺物をはじめ、杭列が検出されており、もともと自然流路であったところに人の手を加えて利用していたのではないかと推測しています。



▲Y1号溝状遺構の杭列、150本以上発見されました

住居を囲む大溝…弥生時代の環濠発見

相模川左岸の自然堤防上に広がる宮山中里遺跡は、弥生時代～近世までの遺構と遺物が発見されている遺跡です。昨年度の調査では、弥生時代の竪穴住居跡(イエ)とその周りに溝がめぐっているのが確認されました。住居の周りに「環濠」と呼ばれる溝をめぐらした弥生時代の集落(ムラ)は「環濠集落」といわれます。



▲発見された環濠



▲環濠の底から出土した土器

今回の調査の結果、宮山中里遺跡では環濠集落を構成する溝が竪穴住居を数軒、取り囲んでいることが明らかになりました。溝は外敵からの防衛のために掘られたのではないかと考えられております。この溝からは壺などの弥生土器を含む遺物がたくさん出土しました。おそらくこのムラの人びとが捨てたのではないかと推測されます。

厚木市 戸田小柳遺跡 厚木市酒井所在

時代…近世、中世、奈良・平安時代、古墳時代、弥生時代、縄文時代
 調査期間…平成24(2012)年12月～平成25(2013)年5月、同年7月～11月、平成26(2014)年5月～8月

寒川町 宮山中里遺跡 高座郡寒川町所在

時代…近世、中世、奈良・平安時代、古墳時代、弥生時代
 調査期間…平成25(2013)年4月～平成26(2014)年3月